

2025年度 12月 社会学研究科・学部教授会 議事要旨

I 議事要旨の確認

- 1 2025年度11月社会学研究科・学部教授会
○議事要旨を確認した。

II 審議事項

1 人事について

(1) 教育研究評議員の選出について

○研究科長から申合せに基づき選挙を公示し、あわせて選出方法について説明した。
審議の結果、翌1月教授会での選出が承認された。

(2) 2026年度学士課程教育専門委員会委員及び大学院教育専門委員会委員の選出について

○研究科長から、大学院教育専門委員会及び学士課程教育専門委員会の2年目委員の後任を1月教授会で審議する旨を報告し、審議の結果、原案通り承認された。

(3) 新規採用人事について（ヨーロッパ史）

【審査委員会の審査結果報告と投票】

○秋山先生より審査委員会の審査報告があり、終了後ただちに可否投票を行った。

【投票結果】

投票総数 48票、可 47票、否 0票、白 1票

これにより、小西 正紘氏の2026年4月1日付け（予定）での
テニュアトラック講師採用が承認された。

(4) 新規採用人事について（政治学）

【審査委員会の審査結果報告】

○田中拓先生より審査委員会の審査報告があり、終了後ただちに可否投票を行った。

【投票結果】

投票総数 49票、可 48票、否 0票、白 1票

これにより、イーシュアン チャン氏の2026年4月1日付け（予定）での講師（3年任期）採用が承認された。

(5) 名誉教授の称号授与について

○2026年3月31日で定年退職される以下の教授について、研究科長より名誉教授に推薦したい旨の提案があり、了承された。

・上田 元 教授

よって1月教授会において名誉教授推薦書について審議することとなった。

(6) 非常勤講師委嘱申請について

○研究科長から資料に基づき報告があった。新規非常勤講師採用については履歴等の書類がそろった方より、次月以降の教授会で審議決定される（今教授会での審議はなし）。

2 テニユアトラック期間延長審査請求について（2件）

【審査結果及び可否投票】

○11月教授会で審議した、飯尾真貴子（いいお まきこ）講師および田中亜以子（たなか あいこ）講師のテニユアトラック延長審査請求について、審査委員会で審査を実施した。審査結果について、各審査委員長（中田研究科長）から審査委員会の選考結果について報告があり、ただちに可否投票を行った。

【投票結果】

○投票結果（飯尾真貴子講師）

投票総数 47票、可 47票、否 0票、白 0票

○投票結果（田中亜以子講師）

投票総数 45票、可 44票、否 0票、白 1票

投票の結果、飯尾講師・田中講師のテニユアトラック延長が可決されたので、審査結果を速やかに学長へ報告する。

3 テニユア審査請求について

【テニユア審査の開始の提案、承認後、テニユア審査委員会の設置】

○吉沢文武（よしざわ ふみたけ）講師から、「大学院社会学研究科におけるテニユアトラック制に関する申合せ」第6条第1項に基づき、テニユア審査の請求があったため、同申合せ第6条第3項に基づき、研究科長が運営委員会における協議を経て、テニユア審査の開始を教授会に提案したところ、異議なく承認された。

テニユア審査の開始の提案が承認されたことから、同申合せ第6条第4項に基づき、以下の通りテニユア審査委員会の設置を提案した。

<審査員の候補者>

- ・井頭 昌彦 教授 （教授会構成員）
- ・寺尾 智史 教授 （教授会構成員）
- ・井川 ちとせ 教授 （教授会構成員）
- ・佐藤 圭一 准教授 （教授会構成員）
- ・村山 達也 （外部委員）東北大学文学研究科教授

投票は、Zoomの投票機能を使用して実施し、審査員選出が了承された。

【投票結果】

投票総数 47票、可 46票、否 0票、白 1票

なお、1月教授会で審査報告及び可否投票を行う予定であることがアナウンスされた。

4 2026年度カリキュラム変更について

○研究科長から資料に基づき説明があり、審議の結果原案通り承認された。

5 寄付講義の廃止と研究科基金への残金の組み入れについて

○研究科長から資料に基づき説明があり、審議の結果原案通り承認された。

6 その他

なし

III 意見聴取（サウンディング）

1 生成AIの利用をめぐるガイドラインの策定について（全学FD動画視聴あり）

○全学FDの動画（11分）を全員で視聴し、標題について意見聴取を行った。研究科長からは、不正行為防止のため、今年度中に研究科としてガイドラインを策定したい旨表明があった。なお議場からの意見は以下の通りであった。

- ・大学として推進するならば大学が費用を負担のうえ一括契約すべき。
 - ・レポートにおけるAIのハルシネーションは捏造にあたるが、学部生の場合には同時に重い停学処分も課されるため、学部生については全学的な基準が必要。
 - ・「社会科学概論」の授業におけるAI使用指針が参考になるのではないか。
 - ・学問知のありかたも含めて、大学全体としてAIをプロモートしていくなら起こりうる問題を整理すべき。アメリカでは文系の研究・教育に問題が出ている。
- 大きな問題より取り急ぎ対応策として検討すべきと考える。全学の指針は2年前のもので、アップデートが必要（研究科長）。
- ・(FDの内容に対して) FDならば調査結果と傾向だけを報告するのではなく、今後デジタルツールをどのように活用できるのかまで展開してほしい。

2 クラス顧問のありかたについて

- 研究科長から主旨を説明し、意見を聴取した。議場からの意見は以下の通り。
- ・入学直後に学生証を渡すのは教員の仕事だと考える。レアケースだがクラス所属の学生の不祥事対応も対応した経験がある。
 - ・相手のことを知らないのに推薦書等に押印することに意味があるのか。クラスではなく導入ゼミのように意味のあるコミュニティを活用すべきでは。

IV 報告事項（研究科内）

- 1 附属図書館ジャーナル・DBの整備方針について
○田中拓先生から、資料に基づき説明があった。
- 2 社会課題解決に向けた高校生提言コンテストの開催について
○研究科長から、資料に基づき説明があった。
- 3 聴講生の履修可能科目について
○学士課程教育専門委員から、11月26日のファカルティメールに記載の通り、コロナを契機にオンライン科目を開放しなくなったことから受講できる科目が限定されており、支障がなければ協力を依頼したい旨の補足説明があった。
- 4 特別聴講学生の履修可能科目について
○研究科長から、資料に基づき説明があった。社会学部は特に少ないため協力を依頼したい。
- 5 その他
なし

V 報告事項（部局長会議、教育研究評議会等）

- 1 一橋大学における研究費不正使用防止計画等について
○研究科長から、資料に基づき報告があった。
- 2 令和8年度大学入学共通テストにおける受験者割当数について
○研究科長から、資料に基づき報告があった。
- 3 令和8(2026)年度大学入学共通テスト及び本学学部入学者選抜等実施当日における教職員・受験者以外の立入禁止等について
○研究科長から、資料に基づき説明があり、特に試験当日に学外者を招く行事等は厳に慎むよう注意があった。
- 4 令和9(2027)年度大型科研応募者を対象としたプレゼンテーションの実施について
○研究科長から、資料に基づき報告があった。
- 5 QS評判調査への協力依頼について
○研究科長から、資料に基づき説明があった。研究支援課からの代理送信よりも先生方個人アドレスからの直接送信のほうが反応がよいため、協力を依頼した。
- 6 「Scopus」ならび「ScopusAI」導入について
○研究科長から、資料に基づき報告があった。

- 7 令和7年度情報セキュリティ対策としての自己点検作業の実施について
○研究科長から、資料に基づき説明があり、未対応の方には12日（金）までに実施するよう依頼した。
- 8 部局間交流協定の締結について（新規）（法学研究科ビジネスロー専攻と国立台湾大学法律学院）
○研究科長から、資料に基づき報告があった。
- 9 大学間交流協定の締結について（更新・全学／①中山大学、②ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、③中国人民大学、④梨花女子大学）
○研究科長から、資料に基づき報告があった。
- 10 次期学長選考の取扱いに関する申合せについて
○研究科長から、資料に基づき報告があった。